



—第17号—

地域・だいがく連携通信 —神戸大学地域連携ニュース—

神戸大学地域連携推進室
〒657-8501
神戸市灘区六甲台町1-1
TEL : 078-803-5427
FAX : 078-803-5389
E-mail : ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp

「灘の酒がつなぐ地域と大学」を 沢の鶴資料館にて開催

プログラム 2015年8月5日(水)16:00-

第1部 16:00- 講演 沢の鶴資料館 司会 甲斐祐子さん

1. 清酒醸造について (沢の鶴製造部 森脇政博主任技師)
2. 日本の食を支える微生物・酵母とがひ (神戸大学大学院農学研究科 竹中慎治教授)
3. 茜彩(あかねいろ)について

休憩 17:05- 館内自由見学

第2部 17:30- 利き酒 にしごう会館

主催 神戸大学 沢の鶴 沢の鶴株式会社 灘区役所

平成27年8月5日(水)、神戸大学・沢の鶴株式会社・灘区役所の主催でシンポジウム「灘の酒がつなぐ地域と大学」を、沢の鶴資料館にて開催しました。

このイベントは平成26年に11月に神戸市において「神戸灘の酒による乾杯を推進する条例」が施行されたこと、また神戸大学と沢の鶴の間で共同開発した日本酒「茜彩」を使った「茜すばあくりんぐ」が平成27年3月に発売されたことをきっかけに企画されました。

16時から始まった講演は、遠藤卓男区長(神戸市灘区)の挨拶から始まり、その後森脇政博主任技師(沢の鶴製造部)より灘の酒造りの歴史や日本酒醸造について、竹中慎治教授(神戸大学農学研究科)より学術的見地から補足説明があり、二人のディスカッション形式でお話が進みました。



遠藤区長による挨拶

第2部では会場を「にしごう会館」にうつし、内田一徳理事(神戸大学)の挨拶の後、一同灘の酒を掲げて、西向賞雄取締役

役(沢の鶴)のご発声で乾杯が行われました。沢の鶴より「茜彩」を含む4種類のお酒を提供いただき、参加者は利き酒を楽しみました。

神戸大学と灘区とは平成16年に連携協定を締結し、その後、様々な事業を行ってきました。その事業の一つに地元企業である沢の鶴と大学の地域共同研究事業が行われ、さざんか酵母を使った新しいタイプの日本酒「茜彩」や「茜すばあくりんぐ」等が商品化されています。

今回のシンポジウムでは地域の方々や学生・教職員等約70名の参加があり、参加者は灘の酒や地域の産学官のむすびつきを体感できる和やかなイベントとなりました。こうしたイベントが開催できたのも今まで大学が地域の産・官とともに信頼関係を培ってきた証です。今後も地域の様々な機関と連携・協力しながら地域の活性化に寄与していきます。



さざんか酵母を使用したお酒



講演の様子



会場の様子



灘の酒でカンパイ!

鶴甲団地再生・活用プロジェクト

— 学内公募連携事業より

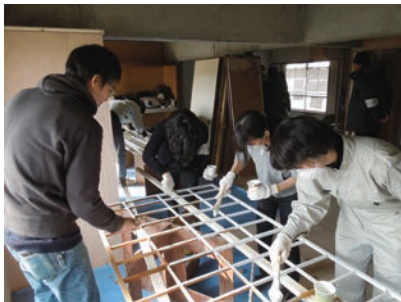


今年6月、神戸すまいまちづくり公社と工学研究科が連携協定を締結しました。協定に基づき、現在神戸市灘区鶴甲団地で団地再生の試みが行われています。「地域連携事業」でも、「鶴甲団地再生・活用プロジェクト」が採択されました。中心で活動されている建築学科の三輪康一先生にお話を伺いました。

— 取り組みのきっかけをお教えてください。

鶴甲団地は、1960年代に開発された住宅団地です。この中に、まちづくり公社が、賃貸住宅を持っていますが、昨年その空家のリニューアルを学生の意欲的な発想で考えられないかとご相談がありました。合わせて、オールドタウン化した鶴甲団地全体の活性化を考えたいということでした。私たちの研究室では、これまでもニュータウンの空間変容と維持管理に関する研究を行ってきました。これはその一環です。

— 平成26年から始められたのですか。



DIYでお部屋をリノベーションや生活スタイルを考慮したものなど、実現可能性をさぐりながらの提案がありました。

会社においても、プロの建築家を対象にリノベーション案が公募されました。2案が選ばれたのですが、それを作るときにDIYで壁を塗ったりするのに学生達が関わりました。

会社は団地に若い世代に住んでもらいたいとの意向がありました。そこで建築学科の学生を対象に、シェアハウスとして住むかどうかニーズ把握のアンケート調査を行いました。

そうです。昨年度は、研究室の学生にリノベーション案の提案を呼びかけました。構造的に壁が抜けない制約の中、学生のためのシェアハウス

や生活スタイルを考慮したものなど、実現可能性をさぐりながらの提案がありました。

会社においても、プロの建築家を対象にリノベーション案が公募されました。2案が選ばれたのですが、それを作るときにDIYで壁を塗ったりするのに学生達が関わりました。

会社は団地に若い世代に住んでもらいたいとの意向がありました。そこで建築学科の学生を対象に、シェアハウスとして住むかどうかニーズ把握のアンケート調査を行いました。

こういった活動を今後も続けていきたいということで、今年度の協定締結にいたしました。

— 平成27年度の活動はいかがでしょうか。

会社では、8月に、2回目のリノベーション案の公募をされました。今回も学生が施工にDIYに関わることも計画しています。

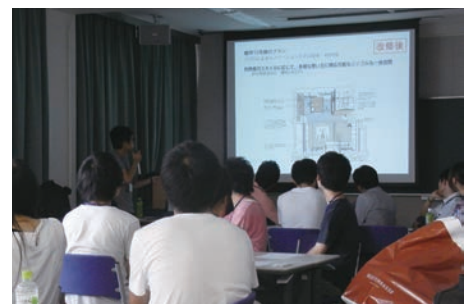
学内アンケート調査の結果、学生シェアハウスは可能性があるということで、さらに「こういうシェアハウスはどうだろう」と7月31日に学生主導のワークショップを開催しました。また、公募作品も含めたリノベーションプラン集の編集・発行をしようとしています。

鶴甲団地の魅力発見、発信ももう一つのテーマです。団地全体の住民の方々に、団地の住み心地やお気に入りの場所、魅力などについて、ヒアリング調査を実施しました。学生によるインタビュー調査は、住民の方々にとって、若い人とのふれあいということで好評でした。

また、鶴甲団地の魅力発見のための“まち歩き”や景観資源調査を行い、マップを作成しました。それらの結果を合わせて、魅力発見のための情報発信を計画しています。形態をマップにするのか、小冊子にするのかは検討中です。

学生が住民の方々のもとに調査に伺うと、学生から元気をもらうと、非常に好意的に対応していただきました。学生にとっても、話をお聞きする良い機会になりました。

また、会社とは、毎月1回、情報交換を行い、情報共有をしながら進めています。



学生によるワークショップの様子

— 今後の課題はいかがでしょうか。

神戸大学の発達科学部でも鶴甲団地活性化事業を行っているとお聞きしています。現在はまだ繋がりがありませんが、今後良い連携ができればと思います。

近年、住まいに対する需要や考え方も変わってきました。空家が増加し、リノベーションが重要になってきています。この分野は、建築技術だけでなく、不動産マーケットや法的整備といった、経済・法律などにも関わる新しい研究領域として考えて行く必要があると思います。



学生によるリノベーションの提案例

福崎町辻川界隈の町並みをジオラマ模型で再現



昔の様子を語る参加者

平成 27 年 8 月 8 日(土)～12 日(水)、兵庫県福崎町の辻川区公民館でワークショップ「みんなの記憶でよみがえらせよう!辻川界隈の町並み」が開催されました。

「柳田國男」が生まれた町である福崎町では、本学人文学研究科地域連携センターと継続して連携事業を行ってきました。このたび、柳田國男氏が育ったころの町並みをジオラマで再現できないかという相談がセンターに寄せられました。そこで、東日本大震災の復興支援として「失われた街」模型復元プロジェクトで、その地域の記憶を保存・継承活動を行っている本学工学研究科槻橋准教授に協力を依頼し、今回、共同型協力研究として辻川界隈のジオラマ模型を作ることになりました。

しかしながら、柳田國男氏の育った当時の環境が分かる資料があまり残っていなかったため、まず、現在の地形のジオラマ模型を作り、そこから地域の方々の記憶や思い出を聞き取り、記録することから始まりました。

公民館には辻川界隈の昔の様子を知る地域の方々が、わかるがわる訪れ、工学研究科や人文学研究科の学生・院生が中心となって聞き取りを行いました。「昔はここには大きな宿屋があった」など模型を頼りに記憶をたどりながら話す地域の方々のお話に耳を傾けながら、学生らがつぶさに記録していきました。この模型は今後、11月8日に福崎町エルデホールで開催されるシンポジウムにて展示される予定です。



熱心に話を聞く様子

「大学力を生かす地域創生懇談会」が開催されました

神戸新聞 2015年08月06日 木曜日 面名 朝三 133 ページ

「大学力」地域にどう生かす

懇談会は県、同市、神戸商議所、神戸新聞社が地域発展に貢献するためにつづいた郷土振興調査会、両大学が加わる形で行われた。

武田廣神戸大学学長は「国は各大学に、世界を目指すか地域に根ざすかという選択を迫っているが、神戸大は世界に発信しつつ、地域にもつながる大学を目指す」と述べた。

清原正義県立大学学長は「県内高校との連携や、県内企業の魅力紹介などを通じ、4割程度のにとどまる県立大学の県内企業就職率を8割上げる目標を達成したい」と説明した。

井戸敏三知事は「新分野を切り開く産学連携プロジェクトを後押しする仕掛けが必要だが、予算の壁がある」と指摘。村田泰男神戸商工会議所専務理事は

県内各界トップ

大学が持つ知識や技術、活力を地域活性化につなげるため、兵庫県、神戸市、神戸商工会議所、神戸新聞社のトップらと、神戸大、兵庫県立大学の学長が意見を交わす「大学力を生かす地域創生懇談会」が5日、神戸市中央区の神戸ポートピアホテルで開かれた。

(森本尚樹)

研究成果 開示に期待



県内の各界トップらと神戸大、県立大の学長が意見を交わした懇談会
＝神戸市中央区港島中町6

平成 27 年 8 月 6 日神戸新聞 朝刊 3 面

平成 27 年 8 月 5 日、神戸ポートピアホテルにて「大学力を生かす地域創生懇談会」が開催されました。

この会では、井戸敏三兵庫県知事、久元喜造神戸市長、村田泰男神戸商工会議所専務理事、高士薫神戸新聞社社長と本学の武田廣学長、清原正義兵庫県立大学学長が集まり地域創生のために大学の力をどう生かすことができるか話し合われました。

大学の学長を交えて地域の未来を語る懇談

会の開催は今回が初めてです。これをきっかけにさらに、大学と地域の結びつきが強まることが期待されます。

(C)神戸新聞社 無断複製 複製および転載は禁止します。

平成27年度 地域連携 学内公募事業

地域連携推進室では、学内の新しい地域連携の芽を育てるため、教職員や学生による地域活性化のための活動を支援しています。今年度は、次の各事業が採択されました。

● 地域連携事業（教職員対象）

国際文化学研究所	映像を媒介とした大学とアーカイブの地域連携
経済学研究所	兵庫県における「地域創生」-ASABAN プロジェクトの普及-
医学部附属病院	兵庫県喘息死ゼロ作戦
工学研究所	鶴甲団地再生・活用プロジェクト
工学研究所	タイムスリップウォークを通じた多世代災害語り継ぎ活動
都市安全研究センター	オープンセンターによる地域連携事業

● 学生地域アクションプラン（学生対象）

神戸大学アメリカンフットボール部	フラッグフットボールを通しての地域との交流
神戸在宅呼吸ケア勉強会	神戸在宅呼吸ケア地域連携MAPの活用効果検証
神戸学生森林整備隊	神戸市しあわせの森における地域特産里山資源の探索
神戸大学保全生態学研究会	市街地の社叢を活用した環境教育の実践
ささやまファン倶楽部	里山ビオトープの資源活用と魅力作り a t 真南条上

平成27年度 神戸大学・灘区まちづくりチャレンジ事業助成

灘区との連携協定に基づき、教職員・学生からなる組織を対象に「地域の課題解決および魅力向上を目的として実施する活動・事業」に対して灘区が助成を行っています。今年度の採択事業は次のとおりです。

人間発達環境学研究所（教職員）	鶴甲いきいきまちプロジェクト
アートマネジメント研究会（学生）	小学生のためのコンサート
まちプロジェクト実行委員会（学生）	まちプロジェクト - まちTフェス'15

活動報告（2015年3月～2015年9月）

3月 16日	(大学)	大学と連携したまちづくりチャレンジ事業助成（灘区公募事業）公募開始
24日	(大学)	平成26年度第3回地域連携推進室会議
25日	(大学)	地域連携事業・学生地域アクションプラン公募開始
27日	(大学)	平成26年度神戸大学地域連携活動報告書を発行
5月 08日	(大学)	平成27年度第1回地域連携推進室会議
6月 17日	(工学)	工学研究所と一般財団法人神戸すまいまちづくり公社が連携協定締結
19日	(農学)	農学研究科地域連携研究セミナー（A-Launch）「第11回ドイツの土壌と食文化」
20日	(人文)	連続講座「丹波の歴史を知る・つなぐ」第1回
7月 18日	(人文)	連続講座「丹波の歴史を知る・つなぐ」第2回
25日	(人文)	「松岡鼎展」（福崎町（～11月23日））
31日	(人文)	人文学研究所と西脇市が連携協定締結
8月 02日	(保健)	「発達の気になる小学生とその家族のための支援教室」（神戸市立青陽須磨支援学校）
05日	(大学)	大学力を生かす地域創生懇談会（神戸ポートピアホテル） シンポジウム「灘の酒がつなぐ地域と大学」開催（沢の鶴資料館）
10日	(人文)	ワークショップ「みんなの記憶でよみがえらせよう！辻川界隈の町並み」（福崎町）（～12日）
9月 05日	(保健)	「第6回 Cinema Cafe」（神戸市立友生支援学校）
26日	(人文)	連続講座「丹波の歴史を知る・つなぐ」第3回 シンポジウム「新三木市史に期待する」開催（三木市中央公民館）
29日	(農学)	農学研究科地域連携研究セミナー（A-Launch+） 「篠山フィールドステーションを拠点とした地域連携活動と今後の展望」